

第5回「新しい時代の初等中等教育の在り方特別部会」における 特別支援教育関係の主な発言概要

- 障害が重い場合であっても、自身で税金を払いながら自立して生きていく力をつけることが重要。障害のある子供がICTを活用する中で、技術に加え、「何を学べば仕事につながるのか」といった仕事への道筋や働ける力を身につけられればよい。
- 学校教育と首長部局の連携を適切にしていくことが重要。特別支援教育についても、支援記録の連携や職業的自立の支援といった観点では、障害者福祉の分野との密接な連携が必要となる。
- 特別支援学級や通級による指導を受けている子供の数は増え続けており、指導の専門性をどう担保していくかが重要な課題。また、小・中学校だけでなく、幼稚園や高校についてもそうした観点が必要ではないか。
- 発達障害などで通級による指導を受けている子供は大部分の時間を通常の学級で過ごしており、特別支援教育に関する専門性はすべての教師に共通して求められるものであることを改めて認識すべき。
- 障害のある子供について、自分の体の一部のようにICT機器を使っている例もあり、将来的なICT環境整備の方向性を考えるにあたっては、本人が使いやすい環境、時間や場所にとらわれずシームレスに使える環境という観点も必要ではないか。

* 上記内容は、委員の了解を取っておらず、事務局がまとめたものである。